

須磨海浜水族園における外来生物駆除キャンペーン
谷口真理・亀崎直樹・東口信行(神戸市立須磨海浜水族園)

生物多様性の保全が叫ばれる昨今、外来生物の駆除は最も重要な課題の一つとなっている。しかし、外来生物駆除に対する考え方は一部の種や地域を除いて、十分普及していないのが現状である。神戸市立須磨海浜水族園では、外来生物の駆除の必要性を市民に普及することを目的に、アカミミガメとブラックバスを対象とした外来生物駆除キャンペーンを行った。キャンペーン期間中、駆除した外来生物を持ち込んだ市民は、当園に無料で入園していただいた。アカミミガメは駆除してもその処理に困ることから、捕獲したアカミミガメを水族園に収容できるようにした。また、ブラックバスに関しては、法的に生きたまま持ち込むことが出来ないため、殺処分した個体を受け入れた。アカミミガメ駆除キャンペーンは2010年8月7～13日に、ブラックバス駆除キャンペーンは2010年10月2～11日に行った。

ブラックバスはキャンペーン期間に166件537個体が持ち込まれた。捕獲場所の内訳は兵庫110件、大阪18件、滋賀17件、京都4件、岡山4件、和歌山3件、広島3件、香川2件、奈良2件、徳島1件、不明2件と水族園と隣接する兵庫・大阪で全体の77%を占め、次いで滋賀が10%と多くを占めた。滋賀県民の外来魚駆除への関心の高さがうかがえた。捕獲環境はため池99件、川31件、ダム湖20件、湖沼(琵琶湖)15件、その他1件でため池から持ち込む場合が最も多かった。これは、兵庫県内はため池が多いことに起因すると考えられた。捕獲方法はルアー釣り134件、餌釣り18件、タモ網6件、不明8件と、ルアー釣りで捕獲し、持ち込んだ者が全体の80%と最も多く、普段からバス釣りをしている者が持ち込んでいる可能性が高いと考えられた。

一方、アカミミガメ駆除キャンペーンはキャンペーン期間中を含む1ヶ月の間に798個体のアカミミガメが持ち込まれた。アカミミガメの持ち込み以前の状況を示すと、自宅で飼育していたが579個体(72.5%)、野外で捕獲したが211個体(26.4%)、不明8個体(1.0%)であった。本来の趣旨に反して、野外で駆除したカメではなく、飼育されていたカメが最も多く持ち込まれた。さらに飼育していた場合、持込者からカメの入手先を聞き取ったところ、ペットショップ等で幼体から購入した個体が210個体で全体の36.2%と最も多く、次いで野外から捕獲し飼育されていた個体が154個体(26.5%)、まつり等での露店により入手した個体149個体(25.7%)を占め、この3つの入手方法が全体の88.6%を占める結果となった。その他に他人からもらいうけたもの39個体(6.7%)、クレーンゲームの景品として入手されたもの、14個体(2.4%)、その他13個体(2.2%)であった。このようにアカミミガメはペットショップやおまつりで購入されることが多いが、さまざまな方法で入手されて、飼育されていたが、飼い主の老化さらにはカメの成長により飼育に困って投棄される現実が浮き彫りになった。

以上より、ブラックバスの駆除を広く一般に広めるためにはルアー釣り者への啓蒙が必須であるといえる。また、アカミミガメに関しては、本種の分布拡大の一因と考えられる飼育に困りカメを投棄する者への啓蒙が必須であるといえる。今後も外来生物駆除キャンペーンを市民への啓蒙と外来生物に関する情報を蓄積していきたい。